

農業、企業との連携、環境保全(農林水産業・食品産業)、関係人口の創出など

遊休荒廃地をブドウ畑にすることによる自然の回復

活動の経緯

遊休荒廃地化した陣舞台地の桑畑が、メルシヤン株式会社の自社農場候補地となったことを契機に、平成12年度に地元関係者で陣場地区土地利用研究委員会を立ち上げ、ワイン用ブドウ畑造成事業の協力体制構築に取り組む。

活動の概要

ブドウの植樹・除葉・収穫体験等を行うほか、豊かな生態系を形成するブドウ畑を活用した環境学習を実施。



造成後のブドウ畑の風景



塩川小学校の環境保全教育の風景

活動の成果、主な実績等

○遊休荒廃地を解消して、平成15年度の開園からメルシヤン株式会社と共に、ブドウ栽培への理解や地域の活性化に向け、ワインを楽しむ会や植樹・除葉・収穫体験を継続してきた。今では、世界最高のワイナリーを選ぶ「ワールド・ベスト・ヴィンヤード」及び「ザ・ベスト・ヴィンヤード・イン・アジア」に4年連続で選出される約30haの広大なブドウ畑までに規模拡大した。

○ブドウの栽培方法に「垣根仕立の草生栽培」を採用することで、日本の国土から減少している里山の草原が保全され、希少性の高いチョウ類や植物などが増加し、豊かな生態系が形成されることが、これまでの調査を通じて確認している。地元の塩川小学校では、絶滅危惧種であるオオルリシジミの食草であるクララを育成し、梔子ヴィンヤードへ移植を行うことで、生物の多様性など環境保全に係る貴重な学習の場にもつながっている。